

検 定 意 見 書

8 枚中 1 枚目

受理番号 27-9		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	6	脚注①	「波長」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
2	10	上	「太陽系の材料のみなもと」写真説明の「元素」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
3	13	下左	「恐竜の繁栄」	不正確である。 (年代との対応。)	3-(1)				
4	14	中左	「プレシアダピス」	不正確である。 (写真との対応。)	3-(1)				
5	18	表1	上右「111.9km」と図7上「111.7km」	相互に矛盾している。 (緯度差1°あたりの長さ。)	3-(1)				
6	18	図7	説明文3行「測定値」	誤りである。	3-(1)				
7	19	囲み	「発展」を示すマーク(以下、21ページ下囲み、24ページ囲み、27ページ中囲み、27ページ下囲み、35ページ囲み、37ページ囲み、83ページ上囲み、98ページ囲み、109ページ囲み、111ページ	不正確である。 (4ページ下右の凡例と対応していない。)	3-(1)				
			ジ囲み、122ページ囲み、124ページ囲み、129ページ囲み、157ページ中囲み、157ページ下囲み、162ページ囲み、167下囲み、168ページ囲み、169ページ囲みの同表現)						
8	21	21左	「磁北極、磁南極」(以下、右図中の同語)	不正確である。 (用語として)	3-(1)				
9	21上囲み		「やってみよう」全体(以下、119ページ、127ページ、141ページ、149ページ、179ページ、182ページの「やってみよう」全体)	学習内容と一体のものとして扱われていない。	固有 2-(2)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

8 枚中 2 枚目

受理番号 27-9		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
10	26	12 - 13	「マントルの化学組成は、約45%が二酸化ケイ素 (SiO ₂)、次に約40%が酸化マグネシウム (MgO) である。」	学習指導要領に示す内容と明確に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(16)				
11	30	図8	中左「造岩」	不正確である。	3-(1)				
12	35	11 - 12	「このように、何千年、何万年をかけて岩石は循環している。」	不正確である。 (タイムスケールとして)	3-(1)				
13	37	図3	図の右半分	不正確である。 (模式図として不適切。)	3-(1)				
14	43	図13	説明文「マントルに対して不動のマグマの供給源で」及び「この原理を利用すると」	不正確である。 (62ページ左2~4行「ホットスポットは、マントル深部の熱源から、高温物質が上昇する場所とされる。ホットスポットを固定点だと仮定すると」との対応。)	3-(1)				
15	44	図15	説明文「西からユーラシアプレートが沈み込み」及び北アメリカプレートとユーラシアプレートの境界の描写	不正確である。 (38ページ図4「不明瞭なプレート境界」との対応。)	3-(1)				
16	47	8 - 9	「マグマの温度が下がり、含まれるSiO ₂ の量が増え、」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (温度低下によってSiO ₂ が増えるかのような表現。)	3-(3)				
17	48	9	「形態により火山弾、軽石、スコリアなどにわけられる」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (形態により軽石とスコリアに区分されているかのような表現。)	3-(3)				
18	50	18	「芦ノ湖」	不正確である。 (例として不適切。)	3-(1)				
19	51	表2	上右「火山損砕屑物」	誤記である。	3-(2)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

8 枚中 3 枚目

受理番号 27-9		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
20	53	1	「d [km]」(以下、変数の記号の後に〔 〕で括った単位記号を置いた表記全て。)	生徒にとって理解し難い表現である。 (変数の記号が表すものについて)	3-(3)				
21	54	表3	中下「 2×10^{60} 」及び「 2×10^{90} 」	誤りである。 (指数。)	3-(1)				
22	64	26 左	「火山岩」	誤りである。	3-(1)				
23	65	表1	左「針長石」	誤りである。	3-(1)				
24	70	図9	全体 (以下、図10全体)	生徒にとって理解し難い図である。 (大きさについて)	3-(3)				
25	72	下右	「この礫のなかには下の地層の頁岩が含まれていて、砂岩の礫は含まれて」	生徒にとって理解し難い表現である。 (図との関係。)	3-(3)				
26	73	図17	下「岩礫砂層」	不正確である。 (地層の名称として)	3-(1)				
27	83	16 - 17	「生きた化石」	表記の基準によっていない。 (学術用語集地学編)	3-(4)				
28	84 - 99		「古生物の変遷と地球環境」全体	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(2)イの「古生物の変遷については、化石の観察を行い」。)	2-(1)				
29	86	図7	「ガンフリント層の化石」全体	主たる記述と適切に関連付けて扱われていない。	2-(12)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 27-9		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
30	89	図20	図中の「古生代型動物群」及び「現代型動物群」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
31	91	図24	中段の写真	誤りである。 (セラタイト型ではない。)	3-(1)				
32	92	6 - 9	「①胎生で、乳で子を育てる、②恒温動物である、③成長が速く、また極端に大型化しない、④脳の発達が著しい、⑤歯が切歯・犬歯・小臼歯・大臼歯に分かれている、⑥体毛をもつ、と	不正確である。 (哺乳類について)	3-(1)				
			いった特徴をそなえている。」(「乳で子を育てる」を除く。)						
33	96	3 右	「走向」	生徒にとって理解し難い表現である。 (未学習。)	3-(3)				
34	96	10 左	「クリノメーター」	生徒にとって理解し難い表現である。 (未学習。)	3-(3)				
35	96	図2	ルートマップ中の走向傾斜記号(以下、96ページ3行右「(走向・傾斜、・・・)を調べて」、97ページ4~6行左「地層の走向と直角の方向に直線a-bを引き、地層境界の走向を延長して、	学習指導要領に示す内容と明確に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(16)				
			直線a-bと交わった点から地層の傾きをいれて線を引く。)						
36	103	15 右	1250 [hPa] (以下、右30-34行の式と同様な表記)	表記の基準によっていない。 (国際単位系)	3-(4)				
37	106	12	「[%]」	生徒にとって理解し難い表現である。 (括弧の意味するところについて説明がない。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 27-9		学校 高等学校		教科 理科	種目 地学基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
38	123	25 右	「異常気象」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)	
39	129	下囲み	「海洋温暖化」全体	発展的な学習内容には該当しない。	2-(14)	
40	129	下囲み	グラフ	生徒にとって理解し難いグラフである。 (海洋貯熱量の定義, 0の決め方について説明がない。)	3-(3)	
41	130	12 - 13	「通常, 気候は30年間の季節変化の平均として定義され, 気候値または平年値として表される。」と14行「平年値(年平均)」	生徒にとって理解し難い表現である。 (平年値について)	3-(3)	
42	133	33 - 34	「木枯らし一号」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)	
43	138	21 - 24 左	(3) 全体	学習指導要領に示す内容と明確に区別されておらず, また, 発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(16)	
44	138	5 右	「入社エネルギー」の「社」	誤植である。	3-(2)	
45	138	14 - 15 右	「各領域に存在する水の量 $\times 10^3 \text{km}^3$ を単位として()中に表し, 」と下図	不正確である。 (両者の対応について)	3-(1)	
46	140	側注①	「惑星の要件を満たさないが, ある程度の大きさをもち, 球状になっている天体を準惑星と定義している。」	不正確である。 (準惑星の定義として)	3-(1)	
47	143	5 - 6	「太陽の重力ぎりぎりにとどまることとなり, 」	不正確である。 (とどまる範囲について)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 27-9		学校 高等学校		教科 理科	種目 地学基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
48	144	23	「自転周期が地球の半分以下と短く、」	不正確である。 (天王星・海王星について)	3-(1)	
49	145	5	「メタンが青色を吸収するので、」	不正確である。 (メタンが吸収するものについて)	3-(1)	
50	146	中左写真	「海王星の衛星トリトンの表面」説明文「火山から窒素が噴出し、」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (窒素の状態について)	3-(3)	
51	147	上右写真	「レーダーで観測した土星の衛星タイタンの湖」説明文「-100℃から200℃と寒いために」	不正確である。 (温度について)	3-(1)	
52	148	12 - 13	「時間をかけて大きく成長した原始惑星が生まれた後、周囲の原始太陽系星雲のガスを多く引き寄せたため、」及び16-17行「原始惑星の成長に時間がかかったため、ガスを大量に引き寄せ	生徒にとって理解し難い表現である。 (原始惑星の成長時間とガスの引き寄せの差異について説明不足。)	3-(3)	
			られず、」			
53	154	6	「(図6)」	不正確である。 (参照先について)	3-(1)	
54	161	図17	灰緑色で示された帯の「主系列星」	不正確である。 (帯で表現されているものについて)	3-(1)	
55	161	図17	図上左部分、太陽の進化を示す黒矢印と主系列星と示された灰緑色の帯	生徒が誤解するおそれのある図である。 (太陽が赤色巨星から白色わい星に進化する過程で主系列星に戻るかのよう)	3-(3)	
56	166	8 - 10	「銀河団を中心に、銀河が銀河群や別の銀河団とつながっている。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (銀河、銀河群、銀河団のつながりについて)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

8 枚中 7 枚目

受理番号 27-9		学校 高等学校	教科 理科	種目 地学基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
57	166	30 - 32	「観測される銀河の距離と運動を調べると、遠方の銀河ほど速い速度で遠ざかっていることがわかる。」	学習指導要領に示す内容と明確に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(16)
58	167	25 - 27 右	「銀河のスペクトル線のずれから銀河の運動を調べると、ほとんどの場合、波長の長い方にずれている。」	不正確である。 (調べた結果について)	3-(1)
59	167	30 - 33 右	「宇宙誕生から38万年後の宇宙からの電波が約3000Kなのに、私たちが観測する電波の温度は2.7Kであることも、赤方偏移による効果で光が赤い方へずれていることで説明できる。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (電波と温度の関係、温度と光の波長との関係について説明不足。)	3-(3)
60	168	7	「(図1)」	不正確である。 (参照先について)	3-(1)
61	168	8 - 9	「ビッグバン以降、宇宙の膨張でエネルギーの一部は物質を生むもととなった。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明不足。)	3-(3)
62	168	21 - 23	「晴れ上がったあたりから、かすかな電波がやってきている。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「あたり」が示すものについて)	3-(3)
63	169	1	「宇宙の晴れ上がりころの微かな電波の強弱は、」	学習指導要領に示す内容と明確に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(16)
64	169	6 - 10	「物質が多ければ重力によって宇宙はいつか膨張をやめ、収縮に転じることも予想できる。ところが、膨張の勢いに対抗するほど物質は多くなく、むしろ膨張が加速していることがわかりつ	学習指導要領に示す内容と明確に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(16)
			つある。これが本当なら、宇宙は永遠に膨張することになる。」		
65	169	下囲み	説明文4行「黒体放射」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 27-9		学校 高等学校		教科 理科	種目 地学基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
66	180	19 - 21	「大きな噴石」と「火山泥流」と「小さな噴石」と「岩なだれ」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)	
67	181	3	「がけ崩れや地すべり」	生徒にとって理解し難い表現である。 (両者の違いについて)	3-(3)	
68	181	8	「そのずれにより」	不正確である。 (原因として)	3-(1)	
69	186	図5	右縦軸「温度差の変化〔℃〕」の数値(以下、図6の右縦軸「CO ₂ の変化〔億t〕」の数値、187ページ図8の縦軸「年平均差〔℃〕」の数値、図9の縦軸「年平均比〔%〕」の数値)	生徒にとって理解し難いグラフである。 (数値の決め方について説明がない。)	3-(3)	
70	187	9 - 11	「日本の年平均気温(図8)と年平均降水量(図9)の経年変化を見ると、近年の温暖化と乾燥化が明瞭である。」と図9	不正確である。 (相互の対応について)	3-(1)	
71	188	21 - 23	「大気から海洋へ、あるいは海洋から大気へ年間約900億tの二酸化炭素のガス交換がある(図12)」(以下、23-24行「大気と陸との間には、年間約1000～1200億tの交換がある。」)	不正確である。 (図12との対応について)	3-(1)	
72	194	4 - 7 右	「この雨水に、工場や自動車などから排出される硫黄酸化物SO _x や窒素酸化物NO _x が混ざると、雨水は酸性度を増し、酸性雨となる。」	不正確である。 (酸性雨の生成過程として)	3-(1)	
73	200	下	「クエーサー」	生徒にとって理解し難い表現である。 (未学習。)	3-(3)	
74	裏見返 5-6		Tc, Po, At, Rn, Fr, Ra, Rf, Db, Sg, Bh, Hs, Mt, Ds, Kg, Cnの欄の標識	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 27-24		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	3	下囲み	「上記の学習内容と、発展、発展で囲んだ学習内容は」	学習上の支障を生ずるおそれがある。 （「発展的な学習内容」を示すマークが複数存在する。）	2-(1)				
2	3	下	囲み全体	示されたサイトは、信頼性のある適切なものが選ばれていない。	2-(9)				
3	6	図4	説明文「宇宙全体の銀河の分布を調査してつくられた地図である。」	不正確である。 （調査範囲について）	3-(1)				
4	10	16	「外側に向かって温度が低下しているため、」	不正確である。 （周辺減光の原因として）	3-(1)				
5	11	下囲み	図a縦軸「黒点の数」	不正確である。 （グラフで示されているものとの対応について）	3-(1)				
6	15	下囲み	「恒星の明るさ」全体	主たる記述と適切に関連付けて扱われていない。	2-(12)				
7	16	図a	星名が付された円(9個)	生徒が誤解するおそれのある図である。 （恒星相互の大きさについて）	3-(3)				
8	17	図c	左から3番目の図「C+0」の引き出し線	誤りである。	3-(1)				
9	24	図21	上右図説明文「おうし座III座」	不正確である。 （天体名として）	3-(1)				
10	26	28	「スペクトルのずれ」	生徒にとって理解し難い表現である。 （説明がない。）	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 27-24		学校 高等学校		教科 理科	種目 地学基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
11	27	囲み	右図横軸「軌道長半径」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)	
12	46	図2	計算式の「900(km)」(以下,「45000(km)」, 173ページ25行「12(°C)」, 26行「6(°C)」, 27行「26(°C)」)	表記の基準によっていない。 (国際単位系)	3-(4)	
13	77	図38	新潟県中越沖地震の震央	不正確である。 (位置について)	3-(1)	
14	77	図38	「北海道南西沖地震」と「新潟地震」	不正確である。 (プレート境界地震の例として不適切である。)	3-(1)	
15	78	16	「D(km)」	生徒にとって理解し難い表現である。 (変数の記号が表すものについて)	3-(3)	
16	79	11 - 13	「この分布から,・・・震源断層の方向や傾きがわかり,断層の動きを推定することができる(図d)。」及び図d	不正確である。 (震源断層の特定には,別の情報も必要である。)	3-(1)	
17	80	下右囲み	全体	発展的な学習内容には該当しない。	2-(14)	
18	81	囲み	「海洋プレート内地震」全体	発展的な学習内容には該当しない。	2-(14)	
19	84	9	「位置は動かず」	不正確である。 (ホットスポットについて)	3-(1)	
20	90	下左囲み	「海溝近くの大洋底にまで広がって堆積した土砂をタービダイトという。」	不正確である。 (次の文「湖底斜面で形成されることもある」との対応。)	3-(1)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検定意見書

受理番号 27-24		学校 高等学校		教科 理科	種目 地学基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
21	102 - 123		「地球環境の生物界の変遷」全体	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (内容の取扱い(2)イの「古生物の変遷」については、化石の観察を行い。)	2-(1)	
22	106	3	「地球の誕生から今日までの時代を地質時代といい」	不正確である。 (定義として)	3-(1)	
23	106	図42	図中の「カンブリア紀型」, 「古生代型」及び「現代型」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)	
24	106	図42	左「科」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)	
25	109	14	「の化石」(以下, 図49の同表現)	不正確である。	3-(1)	
26	115	囲み	中「種」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)	
27	120	4 - 5	「地球全体が急激に温暖化し(→p. 117, 図70), 高緯度地域にも森林が形成された。」	不正確である。 (因果関係について)	3-(1)	
28	121	19	「400万~260万年前」と22行「約230万年前」	不正確である。 (年代値として)	3-(1)	
29	125	左	「ハ虫類の大型化・繁栄」の図中での位置	不正確である。 (107ページ図43との対応。)	3-(1)	
30	134	図9	説明文5行「65(%)」	生徒にとって理解し難い表現である。 (括弧の意味するところについて説明がない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検定意見書

5 枚中 4 枚目

受理番号 27-24		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
31	138	10	「約1.37kW/m ² 」と側注①「約300mLの水の温度を1℃上昇させることのできるエネルギー量に相当する。」	不正確である。 (相互の対応について)	3-(1)				
32	138	図a	縦軸の「W/m ² /μm」	表記の基準によっていない。 (国際単位系)	3-(4)				
33	139	図10	上グラフ可視光の0.5~0.7μm付近の吸収域を示す「02」	誤りである。	3-(1)				
34	141	8-9	「大気中の温室効果ガスが増加すると、大気から地表への放射エネルギーが増加するため、」	不正確である。 (温暖化の説明として)	3-(1)				
35	141	13	「雲がなく風の弱い晴れた」	不正確である。 (放射冷却が顕著になる条件について)	3-(1)				
36	149	18	「中心付近の」	不正確である。 (台風の定義として)	3-(1)				
37	154	側注①	表内「(J/g・℃)」	表記の基準によっていない。 (国際単位系)	3-(4)				
38	155	12-15	「夏の前半には、偏西風がまだチベット高原付近に位置するが、高原とヒマラヤ山脈によって、風の流れが南北に分かれる。高原の南側は、熱帯モンスーン気団の影響によって暖かく湿った	学習指導要領に示す内容と明確に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(16)				
			流れとなり、北側は、大陸性気団の影響によって乾いた流れとなる。」						
39	160	8	「エアロゾル」(以下、10行、19行、161ページ27行、180ページ20行)	表記の基準によっていない。 (学術用語集気象学編)	3-(4)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

5 枚中 5 枚目

受理番号 27-24		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
40	161	脚注③	「気候変動の研究を行う組織。」	不正確である。 (IPCCの設立目的を考慮すると)	3-(1)				
41	161	29	「地球磁場に影響を与え、」	不正確である。 (太陽活動との関係について)	3-(1)				
42	165	15 - 17	「硫黄酸化物や窒素酸化物がとけ込むと、より強い酸性を示す雨となる」	不正確である。 (酸性雨の生成過程として)	3-(1)				
43	165	図a	図全体	生徒が誤解するおそれのある写真である。 (排出されているものがすべて石炭の燃焼による煙であるかのような表現。)	3-(3)				
44	166 - 167	ページ全体	プラス「エルニーニョ現象とラニーニャ現象」全体	学習指導要領に示す内容の取扱いに照らして、扱いが不適切である。 (3ページ「プラス」の説明「学習内容に関連した知っておきたい事項」との関係。)	2-(1)				
45	173	16 - 17	「フェーン現象は、湿った空気が雨を降らせながら山を越えたとき、もとの空気よりも気温が高くなる現象である。」	不正確である。 (フェーン現象の定義として)	3-(1)				
46	175	18	「数cm～数m」	不正確である。 (数値について)	3-(1)				
47	177	12 - 13	「波高」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明不足。)	3-(3)				
48	180	側注1	「2013年」	誤りである。	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

受理番号 27-34		学校 高等学校		教科 理科	種目 地学基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
1	3	16 右	「知ったりこと」	脱字である。	3-(2)	
2	10	2	「太陽や恒星の進化とその最後」(以下, 3行「太陽や恒星の進化」, 11ページ7行「太陽や恒星の最後」)	不正確である。 (本文との対応について)	3-(1)	
3	11	6	「炭素や酸素より原子番号が小さい元素がつくられる。」	不正確である。 (つくられる元素について)	3-(1)	
4	11	側注②	「(詳しくはp. 12 Earthpedia参照)」	不正確である。 (参照先記述との対応関係について)	3-(1)	
5	12	左囲み	説明文1~2行「真の明るさ」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明不足。)	3-(3)	
6	12	左囲み	説明文12行「温度と輝きの関係」	生徒にとって理解し難い表現である。 (「輝き」について説明がない。)	3-(3)	
7	16	9	「局所銀河群」(以下, 10行)	表記の基準によっていない。 (学術用語集天文学編)	3-(4)	
8	17	28	「局所超銀河団」(以下, 図14表題)	表記の基準によっていない。 (学術用語集天文学編)	3-(4)	
9	19	図B	表題「ハッブルが1929年に」	不正確である。	3-(1)	
10	20	7	「準惑星」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

9 枚中 2 枚目

受理番号 27-34		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
11	23	図11	説明文「シェパード衛星」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
12	28	図25	図中「放射層」「対流層」	学習指導要領に示す内容と明確に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(16)				
13	30	22	「黒点相対数」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
14	32	側注①	「準惑星は、惑星ほどは大きくないものの自分自身の重力のために球形をした天体である。」	不正確である。 (準惑星の定義として)	3-(1)				
15	36	14 - 15	「仮説を立てることは、探究の過程で最も大切なことである。」	不正確である。 (39ページ「探究①」、40-41ページ「探究②」、42-43ページ「探究③」、83ページ「探究⑤」、84-85ページ「探究⑥」、124-125ページ「探究⑧」、185ページ「探究⑩」との関係について)	3-(1)				
16	46	4	「hystorical」	誤りである。 (綴り。)	3-(1)				
17	49		「ちよこラボ①」(以下、68ページ「ちよこラボ②」、95ページ「ちよこラボ③」、99ページ「ちよこラボ④」、140ページ「ちよこラボ⑤」、154ページ「ちよこラボ⑥」、158ページ「ちよこラボ⑦」)	実験観察が、学習内容と一体のものとして扱われていない。	固有 2-(2)				
18	49	表1	砕屑岩の説明中の「泥岩」	不正確である。 (粒径の範囲。)	3-(1)				
19	54	図B	付加体堆積物の分布(以下、55ページ13~16行「図Bの地質区分で東北日本を見ると、同じ沈み込み帯でありながら西南日本に見られるような帯状の分布の付加体が見られない。」)	不正確である。 (日本列島の地質区分の説明として)	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

9 枚中 3 枚目

受理番号 27-34		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
20	54	図A	上右「逆転層」	誤りである。 (地図記号との対応。)	3-(1)				
21	54	図A	不整合の説明文「体積」	誤りである。	3-(1)				
22	55	図C	右「海溝底」	不正確である。 (図との対応。)	3-(1)				
23	57	15	「フデিশ、コノドント」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
24	57	23	「種」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
25	59	囲み	表「同位体」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
26	59	図22	「太古代」	不正確である。 (62ページ8行との対応。)	3-(1)				
27	62	7	「38億年前」	不正確である。 (巻末④地球と生命の歴史表との対応。)	3-(1)				
28	62	32	「約21億年前」	不正確である。	3-(1)				
29	63	7 - 8	「平らで節をもち、」	不正確である。 (エディアカラ生物群の説明として)	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

9 枚中 4 枚目

受理番号 27-34		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
30	64	3	「Cambrian」	不正確である。 (頭文字。)	3-(1)				
31	64	8	「の祖先」(2箇所)	不正確である。	3-(1)				
32	68	11	「ハチュウ類から進化した」	不正確である。 (哺乳類について)	3-(1)				
33	70	4 - 5	「万年まで」(2箇所)	脱字である。	3-(2)				
34	72	8	「類人猿の化石が多く見つかり」	不正確である。 (人類進化のシナリオとの関わりについて)	3-(1)				
35	73	1	「homo」	誤りである。 (頭文字。)	3-(1)				
36	73	21 - 22	「一部は子孫を残したと考えられている。」(以下、図44右の旧人と新人を結ぶ破線)	不正確である。 (ネアンデルタール人の説明として不適切。)	3-(1)				
37	75	図	下左「属」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
38	78	14	「同時代の堆積を決めること」	誤記である。	3-(2)				
39	78	20	「シアノバクテリアの光合成による酸素の放出。」	不正確である。 (見出し語との対応。)	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検定意見書

9 枚中 5 枚目

受理番号 27-34		学校 高等学校	教科 理科	種目 地学基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
40	85	上左	43億年前のできごと	不正確である。 (61ページ20行及び側注4との対応。)	3-(1)
41	89	囲み	「伊能忠敬も緯度1度の距離を測定」 全体	発展的な学習内容には該当しない。	2-(14)
42	91	下囲み	「時計の遅れから知る重力の減少」 全体	発展的な学習内容には該当しない。	2-(14)
43	94	12 - 14	「アセノスフェアは地下400kmよりは 浅く、その下のマントルはリソスフェア よりも固いけれどもアセノスフェア よりは軟らかい。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明不足。)	3-(3)
44	95	18 - 19	「プレートの動きの原動力」	不正確である。 (ブルームテクトニクスの説明として不適切。)	3-(1)
45	95	側注4	「(p. 100 Earthpedia参照)」	不正確である。 (参照先として)	3-(1)
46	99	図15	上左の黒矢印	不正確である。 (矢印の向き。)	3-(1)
47	99	囲み	「ちょこラボ ピンポン球で弧状列島 をつくろう」全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (弧状列島との関係。)	3-(3)
48	103	7	「その広がりには図3に示すようにさま ざままで、」	生徒にとって理解し難い表現である。 (図3との対応について)	3-(3)
49	105	図8	注2「Mt」	誤りである。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

9 枚中 6 枚目

受理番号 27-34		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
50	109	15 右	「役に立つ」	不正確である。 (地震について)	3-(1)				
51	113	12 - 13	「長期にわたってその位置は変わらない。」	生徒にとって理解し難い表現である。 (時間スケールについて)	3-(3)				
52	117	図24	下「細粒」	誤りである。 (岩石との対応。)	3-(1)				
53	120	7	「これは地球の重力に関係している。」	不正確である。 (学習内容との対応。)	3-(1)				
54	131	図2	左図上右の「E層」「D層」及び中図下の「F2層」「F1層」	学習指導要領に示す内容と明確に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(16)				
55	131	図2	左図上右の「E層」「D層」及び中図下の「F2層」「F1層」	生徒にとって理解し難い表現である。 (未学習。)	3-(3)				
56	132	図4	グラフ全体	生徒が誤解するおそれのあるグラフである。 (放射強度について)	3-(3)				
57	135	図10	図中の青い点線	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
58	140	下左囲み	①の「a [g]」(以下、変数の記号の後に [] で括った単位記号を置いた表記全て。)	生徒にとって理解し難い表現である。 (変数の記号が表すものについて)	3-(3)				
59	142	側注②	全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明不足。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

9 枚中 7 枚目

受理番号 27-34		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
60	145	図21	凡例赤点線囲み橙色の「多雨」及青点線囲み緑色の「高温」(以下, 図22, 23, 24の同一箇所)	誤りである。	3-(1)				
61	146	15	「中国大陸」	不正確である。 (冬季に寒気団が形成される場所について)	3-(1)				
62	147	3	「世界の年平均降水量約880mm」と151ページ表1の平均降水量の世界の値「813」	不正確である。 (相互の対応について)	3-(1)				
63	149	22 - 23	「南西諸島海溝付近や伊豆・小笠原海溝付近」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (位置関係について)	3-(3)				
64	150	9	「砂州」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
65	150	32	「「燃える水」ともいわれる。」	誤りである。 (メタンハイドレートについて)	3-(1)				
66	151	9 - 10	「ただ人口密度が高く, 一人あたりの水資源量は世界平均の3分の1しかない。」と表1「1人あたり水資源量」の数値	不正確である。 (相互の対応について)	3-(1)				
67	151	表1	「水資源利用率」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
68	162	14 - 15	「植物に遅霜が発生する。」	不正確である。 (遅霜が発生する対象について)	3-(1)				
69	166	図1	上右「ブロッキング高気圧」	生徒にとって理解し難い表現である。 (未学習。)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

9 枚中 8 枚目

受理番号 27-34		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
70	168	12	「数十万年以上」（以下、169ページ図4タイトルの同表現）	不正確である。 （対象とする事象の時間スケールとして）	3-(1)				
71	170	図1	全体	生徒にとって理解し難い図である。 （時間スケールと要因の対応。）	3-(3)				
72	174	図10	グラフB及びC	生徒にとって理解し難いグラフである。 （色分けについて説明がない。）	3-(3)				
73	175	7	「約4%」	不正確である。 （値について）	3-(1)				
74	175	図13	グラフ縦軸の「海水域面積」	誤りである。	3-(1)				
75	176	図2	表題「分野横断的な主要なリスクのレベル」、図内「固有性が高く脅威に曝されるシステム」、「影響の分布」、「世界全体で統計した影響」及び「2003～2012年」	生徒にとって理解し難い図である。 （説明がない。）	3-(3)				
76	178	18	「再生可能エネルギーの利用」と19～27行全体	不正確である。 （表題と記述との対応について）	3-(1)				
77	179	10右	「大分ソーラーパワー」	特定の営利企業の宣伝になるおそれがある。	2-(7)				
78	179	図C	グラフ上「内燃料発電」	誤植である。	3-(2)				
79	191	22右	「図A」及び23行「図B」	誤りである。 （対応する図が存在しない。）	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

9 枚中 9 枚目

受理番号 27-34		学校 高等学校	教科 理科	種目 地学基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
80	196	12 左	④の「①微惑星」	誤りである。	3-(1)
81	196	12 右	⑤の「①海水」	不正確である。	3-(1)
82	裏見返 ⑥	上右写真	上部のロゴ(WNI)と「weathernews」(以下、ページ下右「株式会社ウェザーニューズ」)	特定の営利企業の宣伝になるおそれがある。	2-(7)
83	裏見返 ⑥左	2 - 5	「気象庁が注意報や警報を発しますが、いわゆる「ゲリラ豪雨」といった急に発生する大雨や竜巻は、予測が容易ではありません。」	生徒が誤解するおそれのある表現である。(気象庁が「ゲリラ豪雨」を使用しているかのような表現。)	3-(3)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

6 枚中 1 枚目

受理番号 27-45		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	9	18	「地球は、」	不正確である。 (主語として)	3-(1)				
2	11	脚注1	「隕石が集積して地球が作られたと考えられているためである(→p.83)。」	不正確である。 (83ページとの対応。)	3-(1)				
3	13	図iv	上左「伝り方」	脱字である。	3-(2)				
4	22	6 - 7	「固定された」(以下、図13下「位置は動かない」)	不正確である。 (42ページ19行「ほとんど移動しない。」及び49ページ14行「ほぼ固定された」との対応。)	3-(1)				
5	38	3	「液体の溶岩」	不正確である。 (38ページ7行「それが固化したもの」との対応。)	3-(1)				
6	50	21	「代表的を形」	誤植である。	3-(2)				
7	59	図1	下半部	不正確である。 (61ページ20～23行との対応。)	3-(1)				
8	61	20 - 21	「乱泥流が堆積した地層」	不正確である。 (地層の記述として)	3-(1)				
9	63	3 - 4	「地球上の火山は特定の地域に集中して分布している(p.18図5) , 凝灰岩などの分布も限定されている。」	不正確である。 (凝灰岩の分布について)	3-(1)				
10	63	図9	上右「chart」	誤りである。 (綴り。)	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検定意見書

6 枚中 2 枚目

受理番号 27-45		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
11	69	図19	「約6000万年前」(2箇所)	誤りである。 (三崎層の年代。)	3-(1)				
12	70	図iv	厚さの値	不正確である。 (図iとの対応。)	3-(1)				
13	72	脚注	「folding」	表記の基準によっていない。 (学術用語集地学編)	3-(4)				
14	73	囲み	上右の写真「上位」と「下位」	不正確である。 (右図との対応。)	3-(1)				
15	91	6 - 9	「澄江動物群・バージェス動物群の生物は、かたい殻や骨をもち、形態が多様である。」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (両動物群のすべての生物がかたい殻や骨をもっていたかのような表現。)	3-(3)				
16	97	図41	説明文「約16万年前」と「氷期に海面が下がったため」	不正確である。 (ホモ・サピエンスの拡散について)	3-(1)				
17	97	表1	アウストラロピテクス・アファレンシスとホモ・ネアンデルターレンシスの出現年代	不正確である。 (図43との対応。)	3-(1)				
18	97	表1	「氷期でも効率よく食料を獲得することができた」	不正確である。 (特徴として不適切。)	3-(1)				
19	100	上囲み	図中の「カンブリア型動物」、「古生代型動物」及び「現代型動物」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
20	101	上	オルドビス紀「最初の脊椎動物②の出現(無顎類)」	不正確である。 (90ページ19行及び91ページ図20との対応。)	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

6 枚中 3 枚目

受理番号 27-45		学校 高等学校	教科 理科	種目 地学基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
21	101	上	新第三紀「大型巻き貝」	不正確である。 (大きさについて)	3-(1)
22	115	25	「p. 118」	不正確である。 (参照先記述との対応関係について)	3-(1)
23	115	30	T [°C] (以下, 変数の記号の後に [] で括った単位記号を置いた表記全て。)	生徒にとって理解し難い表現である。 (変数の記号が表すものについて)	3-(3)
24	120	6	「波長」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)
25	120	脚注①	「エアロゾル」	表記の基準によっていない。 (学術用語集気象学編)	3-(4)
26	121	図2	説明文「1.37 [kW/m ²]」	表記の基準によっていない。 (国際単位系)	3-(4)
27	125	図8	図全体	不正確である。 (本文との対応について)	3-(1)
28	125	28	「気温勾配」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)
29	127	表i	850hPaの目的の「中・下層の雲」	不正確である。 (中層について)	3-(1)
30	133	図15	表層混合層に対応する赤線(25° N)及び緑実線(40° N夏)	不正確である。 (3-5行「上下の温度差が小さい層となっていて, 表層混合層とよばれる。」との対応について)	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

6 枚中 4 枚目

受理番号 27-45		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
31	135	脚注②	全体	学習指導要領に示す内容と明確に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(16)				
32	136	図18	横軸に示された「90° N」「北半球」「南半球」「90° S」と熱輸送を示す赤実線、緑破線、青一点鎖線	不正確である。 (相互の対応について)	3-(1)				
33	136	21	「数℃」(以下、25行、228ページ2行)	不正確である。 (「数」の示す範囲が不明確。)	3-(1)				
34	149	上囲み	上左「西高東低の気圧配置」、下左「梅雨」、「秋雨」、「台風」、「南高北低の気圧配置」	不正確である。 (上の「典型的な天気」との対応について)	3-(1)				
35	156	16	「(A. U.)」(以下、脚注①、158ページ右表内(3か所)、159ページ右表内、160ページ右表内(3か所)、161ページ右表内、167ページ図17内(3か所))	不正確である。 (「天文単位」の略号として)	3-(1)				
36	161	図6 (b)	説明文「明るい部分は「陸」、」	不正確である。 (明るい部分の呼称について)	3-(1)				
37	162	図9	説明文4行「太陽光線や」	不正確である。 (イオンの尾への影響について)	3-(1)				
38	163	21	「軌道長半径」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
39	166	9	「核は木星・土星とほぼ同じであるが、」	生徒にとって理解し難い表現である。 (何が「同じ」なのか説明がない。)	3-(3)				
40	166	10	「外層部の水素とヘリウムのガスの量は地球の質量の数倍程度」	不正確である。 (ガスの量について)	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検定意見書

6 枚中 5 枚目

受理番号 27-45		学校 高等学校	教科 理科	種目 地学基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
41	167	23 - 24	「太陽からの距離が0.97~1.39天文単位の帯状の領域で、」及び図18薄紫色で示された「ハビタブルゾーン」の範囲	不正確である。 (領域の範囲を確定的に記述している。)	3-(1)
42	169	図21	説明文「カルシウムH線」(以下、198ページ図i説明文「カルシウムのK線、H線」)	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)
43	173	下囲み	下右枠「プロミネンス 彩層からコロナに吹き上がったループ状の炎」	不正確である。 (プロミネンスの説明として)	3-(1)
44	174	21	「主に可視光線が」	不正確である。 (太陽放射について)	3-(1)
45	182	15	「主系列星」のルビ「しゅけいれっせい」(以下、184ページ17行)	表記の基準によっていない。 (学術用語集天文学編)	3-(4)
46	195	21 - 23	「遠くの銀河ほど、光の波長が赤い方にずれているため、赤く写っている。」	不正確である。 (赤く写っている理由について)	3-(1)
47	197	図10	説明文「宇宙の誕生直後に急激な膨張(インフレーション)があった。また、右端(現在)の方で図形の開きが大きくなっているのは、宇宙の膨張が加速していることを表している。」及び図中	学習指導要領に示す内容と明確に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(16)
			「インフレーション」		
48	213	23	「噴石」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)
49	222	13 - 14	「水平方向で十数km程度のものから」	不正確である。 (ダウンバーストのサイズとして)	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

6 枚中 6 枚目

受理番号 27-45		学校 高等学校	教科 理科	種目 地学基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
50	223	図25	下右写真「アメダス」	不正確である。 (写っているものとの対応について)	3-(1)
51	227	15 - 17	「これらが相互に作用して、気候は安定すると考えられている。」	不正確である。 (正・負のフィードバックについて)	3-(1)
52	227	22	「今日の温暖化より大きな、あるいは急速な気候変動は、過去に何度も起きてきた。」	不正確である。 (時間スケールを考慮すると)	3-(1)
53	233	下表	月の離心率「0.0549」及び軌道平均速度「1.023」	不正確である。 (地球に対する値。)	3-(1)
54	233	下表	木星の自転周期「0.435」	不正確である。	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

6 枚中 1 枚目

受理番号 27-48		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
1	1	上	2種類の「発展」マーク	学習上の支障を生ずるおそれがある。 (「発展」を示すマークが複数存在する。)	2-(1)				
2	6	12 左	「プレートテクトニクスがなく」	不正確である。 (用法として)	3-(1)				
3	7	表1	「公転周期」の「(太陽年)」と水星から海王星までの数値	不正確である。 (対応について)	3-(1)				
4	8	図10	説明文「直径約500m」	不正確である。 (球状ではない。)	3-(1)				
5	8	図11	説明文「直径約30km」	不正確である。 (形状及び大きさについて)	3-(1)				
6	9	図17	説明文「太陽の光を反射して」	不正確である。 (反射ではない。)	3-(1)				
7	14	13	「マントル」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
8	15	上	「実験1」(以下、23ページ「実験2」, 25ページ「実験3」, 34ページ「実験4」, 50ページ「実験5」, 59ページ「実験6」, 76ページ「実験7」, 80ページ「実験8」, 85ページ「実験9」,	実験が学習内容と一体のものとして扱われていない。	固有 2-(2)				
			100ページ「実験10」, 111ページ「実験11」, 115ページ「実験12」, 118ページ「実験13」, 127ページ「実験14」, 140ページ「実験15」, 148ページ「実験16」, 149ページ「実験17」,						
			175ページ「実験18」, 184ページ「実験19」)						

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

6 枚中 2 枚目

受理番号 27-48		学校 高等学校	教科 理科	種目 地学基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
9	16	図23	説明文「太陽から0.95～1.15天文単位の領域と考えられている。」	不正確である。 (ハビタブルゾーンの範囲として)	3-(1)
10	17	21 - 23 左	「太陽系のさまざまな場所から地球近辺にやってきて数千万年ほど滞在した後、多くは太陽に衝突して終わる。」	不正確である。 (小惑星について)	3-(1)
11	19	上表	3段目「岩石上」の「上」	誤植である。	3-(2)
12	20	3	「海溝の形成（沈降）」	不正確である。 (変動現象の表現として)	3-(1)
13	29	19 左	「最終氷期」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない)	3-(3)
14	38	3 - 4	「地下で地震が起こり、地表で断層が生じることがある。」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (地震のゆれが原因で断層が生じるかのような表現。)	3-(3)
15	41	9	「D [km]」(以下、変数の記号の後ろに〔 〕で括った単位記号を置いた表記全て。)	生徒にとって理解し難い表現である。 (変数の記号が表すものについて)	3-(3)
16	43	側注1	全体	発展的な学習内容には該当しない。	2-(14)
17	44	図37	「地殻」(2箇所)	不正確である。 (図との対応。)	3-(1)
18	52	8	「でにある」	誤植である。	3-(2)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

6 枚中 3 枚目

受理番号 27-48		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
19	54	7	「元素」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
20	61	表A	下右「火山岩塔」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
21	62	図63	「日本列島における広域変成岩と花崗岩の分布」全体	学習指導要領に示す内容と明確に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(16)				
22	63	1 - 5	「B多形」全体 (以下、図65全体及び側注1全体)	学習指導要領に示す内容と明確に区別されておらず、また、発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(16)				
23	79	側注1	全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (葉理について)	3-(3)				
24	81	図B	ウニの生痕の模式図	不正確である。 (写真との対応。)	3-(1)				
25	82	図17	「印象化石」全体	不正確である。 (「体化石」との関係。)	3-(1)				
26	83	側注4	全体	発展的な学習内容には該当しない。	2-(14)				
27	91	上	「中世代」 (以下、93ページ上、95ページ上、99ページ上の同語)	誤りである。	3-(1)				
28	92	9 - 11	「上陸したシダ植物は、乾燥した環境でも生息することができたので、内陸へと分布を広げていき」	不正確である。 (シダ植物の繁殖方法を考慮すると)	3-(1)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

6 枚中 4 枚目

受理番号 27-48		学校 高等学校		教科 理科		種目 地学基礎		学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準				
	ページ	行							
29	92	22	「その後」	不正確である。 (前後関係について)	3-(1)				
30	95	4 - 5	「それまで極域に存在していた氷河も白亜紀中期には消えた。」(以下、裏見返7「温暖化(氷床の消滅)」)	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (中生代のほとんどの期間に氷床が広がっていたかのような表現。)	3-(3)				
31	95	図42	アロサウルス「植物食」	不正確である。 (94ページ19～20行「肉食で体長が10m前後のアロサウルス」との対応。)	3-(1)				
32	96	24	「96%が絶滅した」(以下、25行「70%以上が絶滅した」, 97ページ17行「は56%, …は85%が絶滅した。)	不正確である。 (何の割合であるかの明示がなく, 大量絶滅の記述として不適切である。)	3-(1)				
33	113	16 右	「過飽和」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)				
34	122	囲み	「偏西風の影響」全体	学習指導要領に示す内容と明確に区別されておらず, また, 発展的な学習内容であることが明示されていない。	2-(16)				
35	143	12 - 13 左	「硫黄酸化物や窒素酸化物は大気の流れによって移動し, 雨滴に溶けこんで酸性雨となる。」	不正確である。 (酸性雨の生成過程として)	3-(1)				
36	151	1	「地震予知」	不正確である。 (本文との対応。)	3-(1)				
37	158	27 - 28	「集中豪雨では, 1時間に80mm超もの降雨があり, 1日に400mmをこえる雨量が観測される。」	不正確である。 (集中豪雨について)	3-(1)				
38	161	4 - 5	「アジア大陸」, 25行「中国大陸」及び37行「シベリア大陸」	生徒にとって理解し難い表現である。 (相互の関係について)	3-(3)				

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

6 枚中 5 枚目

受理番号 27-48		学校 高等学校		教科 理科	種目 地学基礎	学年
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	
	ページ	行				
39	161	図A	天気図と日付「2013年7月7日」	不正確である。 (相互の対応について)	3-(1)	
40	167	上左囲み	「コロナホールの境界からは高速太陽風が吹き出している。」と173ページ左13-14行「低速風はコロナホールの境界付近から吹き出している。」	不正確である。 (相互の対応について)	3-(1)	
41	169	上囲み	グラフ縦軸の「黒点相対数」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がない。)	3-(3)	
42	170	8 - 9	「プラスの電気を帯びた原子核(イオン)」	不正確である。 (括弧内外の関係について)	3-(1)	
43	171	8 - 9 右	「おもに可視光となって太陽表面に出てくる。」	不正確である。 (出てくるものについて)	3-(1)	
44	171	12 - 14 右	「対流が起きるのは、放射だけでは、あまり多くのエネルギーを運ぶことができないためである。」	不正確である。 (対流が起きる理由について)	3-(1)	
45	175	28 - 30 左	「スリットを光源に向けて、のぞき窓から観察し、太陽光・蛍光灯・白熱灯などのスペクトルを比較する。」	作業の安全について適切な配慮がされていない。 (太陽光の観察について)	固有 1-(2)	
46	176	図16	灰色で示された帯の「主系列星」	不正確である。 (帯で表現されているものについて)	3-(1)	
47	184	15	「この爆発的な膨張をビッグバンという。」	不正確である。 (膨張をビッグバンとすること。)	3-(1)	
48	193 - 195	ページ 全体	②「探究活動の方法とレポートの例」全体(以下、196ページ上左「A三角比」、中左「B指数による表し方」、下左「C対数の表し方」、右「D有効数字の扱い方」、197ページ下右「F温度の	主たる記述と適切に関連付けて扱われていない。	2-(12)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

検 定 意 見 書

6 枚中 6 枚目

受理番号 27-48	学校 高等学校	教科 理科	種目 地学基礎	学年
------------	---------	-------	---------	----

番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準
	ページ	行			
			表し方」, 200ページ⑦「天球座標」)		
49	198	上表	注②の「 $\sqrt{a^2-b^2}/c$ 」	誤りである。 (分母について)	3-(1)
50	208	右囲み	「生きた化石」(2箇所)	表記の基準によっていない。 (学術用語集地学編)	3-(4)
51	裏見返 9		リンボクとロボクとフウインボクの「 体長」	不正確である。 (大きさの表現として)	3-(1)

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。